

琉球大学学術リポジトリ

1972年の沖縄返還時の有事の際の核持ち込みに関する「密約」に係る調査関連文書No.2

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込みに問題, ジョンソン次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43897



98

総理 大蔵 下田 冷元 寺島 佐野 三島 米内 北条
外務大臣訪米報告

極秘

44.9.15 米局長

1. 今回の訪米は、11月の総理訪米に先立、最後の大臣レベルの会合の機会であり、外務大臣としては、余すところ2ヶ月に迫った総理訪米に於ける仲絶返還問題に決着をつけるためには、最大限に仲絶の諸点を詰め置く必要ありとの立場で、國務長官との会合に臨んだ途次である。

大臣訪米に先立ち、東京における事務レベルの会合の結果については、國務長官も相互検討していただくと思われるが、大臣滞在中、國務長官とも改めて詳細研究を進め、

月までの特写的郵打も念頭に置いて、我方との会合を極力具休的に固めようとの気持を示したことは、今後の交渉促進上、極めて有益であった。

2. 以上の雰囲気で行われた2回の大蔵國務長官の会談の結果、主たる問題点についての進展は、凡そ次のとおり。

(1) ヴェトナム

今回の会談を通じ、米側が最も懸念しているのは、ヴェトナムである。即ち返還の時期到来するも、ヴェトナム戦争の終結にない場合の問題については、これを曖昧な形

3
ではなく共同声明自体に記すことか、
から爾後米国内の取極めは到底望ま
くもなし、という事情を強調し、従って我方が

共同声明の中におのづかき
号の点に及ぶ。米側としては一方向の要求が整
つたと云うことにはなっていない。共同声明

の字句について縮減の点がある。米側

今回の会議に於て双方実質的に合意を
見せるとは大きな前進であった。

(12) 韓国、台湾に関する出撃

韓国、台湾に於て武力攻撃がある
た協会の米軍と軍の内部については、東京に

4
筋の社会の過程を通じて、
達していたが、今回の会議に於て、

共同声明に於て両者を全く同列に扱
この不適当なる所を充分認識し、共同声明

及び「我方一方の要求」の表現については若
干の修正を強する所であった。但し本件に

関しては、事前協定の時向給余裕もなきよう
事象変更の協会の内部に於て米国内の調整未

了の如くである。

(11) 核兵器

本件に関しては、國務長官は彼の協定の
問題が解決の上で特に本件に於て大統領

と驚と協成する要あり、米國としては極めて
重要なる問題であるので、今日の段階では、
何とも申し上げ難しと繰返すのみであつた。

察するに、國務省としては今後12月 國務省
とも話を讀めたる上、返還時の核撤去に付

大統領の決断を仰ぐ事であると見做るが、
今日のところ直情から断定的な予測を立て

難く、特にいかなる返還時の有事対応の扱方
については我々としても考へて置く必要かあると認

めらる。

3. 以上を通観するに、國務省としては長らく下

11月の總理訪米の機会に毎の難事を解決して

日米両国を改めて牢固なる基礎の上に容居せ
しめると云う確乎たる考方になつて遂刻に努力
（このことに譲りない）と認めらる。しかし乍ら

國務省との最終的な詰めは、これからであら

り、その進捗が容易でないことは懸念するに過

くなく、今後總理訪米までの間は日米両国に於て

核の問題を含め總々の点に付完全な準備を

了すべく努力をせねばならぬが、大統領

の決断は、高松の時は洗滌内閣のみならず

日米兩國の關係、アジア或は世界における

西國の協力と云う應に分量における心配を

必要とし、今秋の日米会談はその意味を極めて

重なるものとならう。